

2023 Spring referee' s Report

全国大会 参加報告 3

- U-22 審判員春季研修会
(TRAUM CUP 2023 東日本 in SPRING)
- U-20 審判員春季研修会
(TRAUM CHALLENGEFESTA 2023 in SPRING)
- JFA 第 34 回全日本 O-30 女子サッカー大会

※ 開催日程順に掲載



U22春期審判員研修会 参加報告



所属：兵庫県

氏名：福田峻平

はじめに

この度、2023年3月5日より茨城県鹿島市にて開催されました「U22春期審判員研修会」に、参加させて頂きましたので、ご報告致します。

このような研修会に推薦していただきました関西サッカー協会・兵庫県サッカー協会の皆様、大会開催期間を通してお世話になりました皆様、そして、大会を開催していただきましたスポーツマネジメントの皆様に、感謝申し上げます。

研修会概要

研修会名称：U22春期審判員研修会

研修会期間：2023年3月5日～3月9日

研修会目的：将来、地域トップカテゴリーを担当する、もしくは地域レフェリーアカデミーにつながる審判員として、成長が期待される人材に対して、地域上位カテゴリーにつながる刺激を与えること。

大会概要

大会名称：TRAUM CUP 2023 東日本 IN SPRING

大会期間：2023年3月6日～3月9日



研修会を通しての共通目標

- ・リーダーシップ
- ・向上のきっかけ
- ・仲間の拡大
- ・大会貢献

関西の参加審判員

- ・福田 峻平 (兵庫)
- ・佐藤 翔太 氏 (兵庫)
- ・井城 直人 氏 (大阪)



1日目（3月5日）

スケジュール

- 12:30 新神戸駅出発
- 17:00 鹿島アイビーホテル チェックイン
- 20:00 開講式・研修会
- 21:30 解散



研修会内容

- ・大会要項の確認
- ・自己紹介
- ・課題の確認
- ・課題を克服するためのグループディスカッション

課題を下記の4つに大きく分け、最も課題と考える点の改善策について、グループディスカッションを行いました。

- ・判定基準
- ・ポジショニング
- ・マネジメント
- ・表現すること



私は、判定基準を課題にグループディスカッションを行いました。
グループは、佐々木氏（鹿児島）・廣末氏（岡山）の3名で行いました。
話し合いの中で全員が共通して難しいと感じた判定基準が、「空中での競り合い」です。空中での競り合いは、他の競り合いと大きく違う点があります。それは、頭を用いる頻度が高いということです。そのため、少しタイミングや強度を間違えば、競技者に危険が生じてしまいます。このようなことから、今回の話し合いでは「空中での競り合い」について、クローズアップし話し合いを行いました。

空中での競り合いを判定することに重要なことに下記のようなことが出ました。

- ・競り合いをクリアに見るためのポジショニング
- ・ボールへの優先順位
- ・ボールにチャレンジする前の手や体の競り合い
- ・頭部の接触

これらを踏まえて私たちは、判定基準そのものだけを考えるのではなく、競り合いを見るための「ポジショニング」、競り合いで手のファウルをさせないための「マネジメント」も必要であり、4つの大きな課題が改善できれば、正しい判定基準が伴ってくるのではないかと考えました。

2日目 (3月6日)

スケジュール

9:00 鹿島ハイツにてミーティング①
13:00 1試合目の大会運営
15:00 拓殖大学 VS 東京国際大学 (担当)
20:00 ミーティング②



ミーティング①

・シグナルについて

今回のミーティングでは、**シグナル**について学びました。シグナルの理想は、「観客がスマートフォンを見ている→笛が鳴る→スマートフォンから目を離し、フィールドを見る→主審がまだシグナルをしており、何が起こったかわかる」ということです。そのため、ひとつのシグナルを約5秒間行うことができれば、スタジアムのすべての人に見てもらうことができます。

また、カードの出し方ひとつでも、印象が変わります。

下の左の写真のように出すと出ただけのように見えますが、右の写真のように出すと自信を持って、見やすく出しているように見えます。



このように、審判のシグナルひとつで、見やすさ・自信の表れが変わります。

試合について

拓殖大学 VS 東京国際大学

前半 主審：福田 副審1：佐々木氏 (鹿児島) 副審2：ハズィム氏 (富山)
後半 主審：ハズィム氏 (富山) 副審1：佐々木氏 (鹿児島) 副審2：福田
インストラクター：名木氏

試合を振り返り、今回の試合ではポジショニングで後手を踏むことの多い試合となりました。その原因として考えられるのは、予測が少なかったということです。そして、予測をできていなかった理由は、体の向きが悪く情報量が少ないということがわかりました。情報量が少なければ、ゲームの読み取りが難しくなり、必然的に予測ができなくなってしまいます。

このようなことから、次の試合では体の向きを改善し、情報量を増やすことにより、ゲームの展開を読み、予測を増やせるようにしていきたいと考えました。



3日目 (3月7日)

スケジュール

9:00 第1試合キックオフ (運営)
11:00 第2試合キックオフ (担当)
13:00 第3試合キックオフ (運営)
15:00 第4試合キックオフ (運営)
20:00 ミーティング

試合について

拓殖大学 VS 関西学院B2

主審：松田氏 (山形) 副審1：福田 副審2：帯同
インストラクター：浅井氏

今回の試合は、90分の副審でした。

細かいポジショニング調整を行い、正しい判定を行うことができました。

今回1つ課題となった点は、主審への援助の方法です。後半終盤、拓殖大学のペナルティーエリア内で、関西学院FWが抜け出し、それに対して拓殖GKがボールにチャレンジしようとするも失敗し、関西学院とFW接触した際に、主審が見えておらず正しくはPKの判定だが、見逃されてしまうという事象がありました。その後、帯同の副審と協議の結果、PKの正しい判定へ変更となりましたが、この際、私からは逆サイドながらもクリアに事象が見えていたため、帯同の副審が援助を行うのではなく、私が臨機応変に援助しても良かったのではないかと、浅井氏からアドバイスをいただきました。

今後このように、近い側の副審や主審から見えないが、遠い側の副審からは見えるということもあると思います。そのような際に、臨機応変に対応し、遠いながらも勇気を持って伝える必要があると考えました。



4日目 (3月8日)

スケジュール

9:00 第1試合キックオフ (運営)
11:00 第2試合キックオフ (運営)
13:00 第3試合キックオフ (運営)
15:00 第4試合キックオフ (担当)
20:00 ミーティング

試合について

城西大学 VS 中央大学B2

主審：福田 副審1：帯同 副審2：帯同
インストラクター：田中氏

今回は前回の反省点を踏まえて、情報を多く取り込みながら予測を増やすということを意識して、試合に挑みました。

その結果、予測がうまくハマることが多くなり、良い位置で正しい判定を行うことができていると、田中氏からお褒めの言葉をいただきました。前回の主審の際から大きく違う点は、アドバンテージの適応回数が増えたということです。予測ができているため、このように結果が伴ったのではないかと考えます。

今回の反省点は、前半に城西大学GKと中央大学FWが同時にハイボールにチャレンジした結果、GKのパンチングした手がFW選手の鼻に当たり、出血してしまうという事象がありました。正しい判定はできているが、少し距離があり、選手から声の出していました。この際に、もう少し近くで見れば、説得力のあるレフェリングができたのではないかと考えます。

その後に、城西大学DFと中央大学FWが城西大学ペナルティーエリア内で、競り合い中央大学FWが倒れたシーンがありましたが、説得力のあるポジションで、正しいノーファウルの判定を行うことができ、試合の中で修正ができたのではないかと考えます。



5日目 (3月9日)

スケジュール

9:00 第1試合キックオフ (担当)
11:00 第2試合キックオフ (運営)
13:45 閉講式
14:00 鹿島ハイツ出発
21:36 新神戸駅到着

試合について

環太平洋大学 VS 中央大学B1

前半 主審：佐藤氏 (兵庫) 副審1：福田 副審2：諸原氏 (長崎)
後半 主審：田村氏 (千葉) 副審1：福田 副審2：諸原氏 (長崎)
インストラクター：石川氏

研修会最終日は副審を90分行いました。前回良かった点に加え、ファウルサポートなどの主審への援助を積極的に行い、主審と協力し、円滑に試合をコントロールできました。

今回、主審が石川氏からいただいていたアドバイスで、重要であると感じたことがあります。

1つ目は、手のファウルについてです。ゴールライン付近で守備側競技者が体を入れて、ゴールキックにするというシーンがよくありますが、この際に、攻撃側競技者の手の反則を簡単に取ってあげてもいいのではないかとアドバイスです。「これくらいなら頑張れるという主観的な判定は、主審が自分を言い聞かせているだけ。主審は常に客観的判断をしなくてはならない」という言葉に共感しました。



研修会を振り返って

今回の研修会を通して、得たことの共通点はどれも、自分が将来大きな舞台でチャレンジする際に、困らないための練習だったのではないかと考えます。

例えば、ミーティングの時に全員の前で発表を積極的に行うのも、この人数で緊張してはスタジアムでの数万の観客の前での緊張に勝てないため、人前で緊張しないための練習でした。また、シグナルの仕方やカードの出し方なども、大きな舞台を意識したものでした。今後、Covid19の終息に伴い、有観客試合が増えていくと考えます。その際に、自分の100%以上のパフォーマンスを引き出せるように取り組んでいきたいと考えます。

また、大会運営を通して、普段私たちが試合でレフェリングを行えているのも、運営して下さる方々が居るからだということを再認識することができました。チーム・審判団・運営・観客など、サッカーに関わるすべての人たちにより、「美しい試合」が成り立っているのだと、改めて考えます。

終わりに

今回、初めての全国研修に、楽しみな気持ち・緊張・他の審判員に負けない強い気持ちを持ち、参加させていただきました。5日間を通して、自信の今持っているものを出し切ることができたのではないかと考えます。また、全国各地の審判員・インストラクターの方々との交流により、新たな知識や価値観を得ることができました。

研修会を過ごした5日間、実りのある時間を過ごすことができ、今回得た知識・価値観・経験は、今後私の人生の大きな財産になると考えます。

この知識や経験を生かすを潰すも、自分次第です。必ず活かし、1級審判員そして国際審判員を目指し、日々努力いたします。

改めまして、今回このような研修会に推薦していただきました関西サッカー協会・兵庫県サッカー協会の皆様、大会開催期間を通してお世話になりました皆様、そして、大会を開催して頂きましたスポーツマネジメントの皆様に、感謝申し上げます。



TRAUM CUP 2023 東日本 in SPRING

U-22 審判員研修会参加報告

関西サッカー協会

2級審判員 佐藤翔太



大会名 : TRAUM CUP2023 東日本 in SPRING
開催日時 : 2023年3月5日(日)~9日(木)
場所 : 鹿島ハイツスポーツプラザ
参加者 : 地域推薦 U-22 審判員

【はじめに】

はじめに、大会期間中お世話になりましたスポーツマネジメント株式会社の皆様、参加チームの皆様、JFA 審判部の皆様、インストラクターの皆様、集まった同年代の審判員の皆様に感謝申し上げます。また、普段よりご指導いただいております関西サッカー協会、兵庫県サッカー協会、明石市サッカー協会、ご支援してくださっている皆様に感謝申し上げます。

以下、研修会参加の報告をさせていただきます。

【事前研修会】

・2月14日(火)20:00~21:00 ZOOM

・進行：名木利幸 氏

地域推薦のU-22/U-20 審判員とインストラクターが参加しました。

研修会は連絡事項と審判のテクニカルの2部構成で行われました。

★審判員のテクニカル★

講義：名木利幸 氏

・サッカーの4局面

・「球際」の判断

・判定基準の整理

・表現力

・マネジメント

⇒得点をねらうFKへの対応

⇒CKへの対応

上記、5項目について整理をしました。

■ サッカーの4局面 ■

サッカーの4局面

レフェリーに求められるものは何か？



上記の通り、サッカーの局面を4つに分けて整理を行いました。

そこからレフェリーに求められているものを考えて行くと・・・

★サッカーのプレースピードがどんどん速くなって行っている★

そのため、トランジション(攻守の切り替え)にどう対応するのか、どう動くのが大切になってくるというように感じました。

■ 球際 ■

どのカテゴリーでも厳しさを求められている「球際」について整理を行いました。

球際は・・・相手とコンタクトを伴う

- ・ボールを保持し突破する技術 ⇒ 攻撃
- ・ボールを奪う/取り戻す技術 ⇒ 守備

また整理をしていく中で、

★守備側の仕掛けによって球際は激しくなる★

ということを理解し、その玉際の強度を「適正に」判断し基準を作ることが必要だと学びました。それに加え、審判員が注意しなければいけない点として「選手の安全、安心を最優先」に判断をする事が重要だと改めて学びました。

■ 判定基準の整理 ■

得点・試合結果に関わる判定

- ・ DOGSO (& SPA)
- ・ 著しく不正なプレー
- ・ タックル
- ・ ハンド
- ・ PA 内での守備側ファウル⇒PK
(ボールにチャレンジしているのか⇒懲戒処置)

このような判断において、現場でプレッシャーがかかる場面で判定基準を用いて適正に判定を行えるということが大切だと感じました。そのために、何を判定基準として判定していくのかという整理が大切だと学びました。

■ 表現力 ■

状況を理解して判定をする上で、

- ・どんな表現をして
- ・どんな表情をして
- ・どのようなアプローチで

ということを考え、どう伝えるのか、どのようにしたら伝わるのかということを考えて表現をしていくことが必要だと再確認しました。

また、将来的にスタジアムで表現することを頭に入れた上で、常に「ベストシグナル」を追求していくことが必要だと学びました。

■ マネジメント ■

① 得点をねらうFKへの対応



またそれに加えて

- ・どの位置(中央、サイド⇒サイドであればARからのサポートも)
- ・選手の特徴を活かした仕掛け
- ・キックの種類

などを考慮したマネジメントが必要だと学びました。

② CKへの対応

★CK時に注意しておくこと★

- ・ゴールキーパー前の攻撃側競技者への対応
- ・ペナルティーマーク周辺の集団への対応
- ・ゴールエリア内の密集となる集団への対応

これらを注意しながら

- ・早期に対応 or 状況を監視
- ・集団への対応 or 特定の選手への対応

を選択していくことが必要だという事を再確認しました。

【3月5日(日) 開講式】

参加者の自己紹介や、翌日から始まる大会の要項などについての確認を行いました。

その後、事前アンケートをもとに

- ①判定基準
- ②表現すること
- ③マネジメント
- ④ポジショニング

の4つのテーマで課題についてグループワークを行い、それぞれの課題についてグループのメンバーから改善のヒントを得ました。



【3月6日(月) 大会1日目】

鹿島ハイスポーツプラザに移動し、はじめに「シグナル」についての確認を行いました。普段のシグナルを行い、お互いに動画を撮って確認を行いました。すると、自分の思い描いていたシグナルとは違い、肘が曲がっていたり、見栄えが悪かったりする人が何人もいました。その後、どうすればかっこよく見栄えの良いシグナルが出せるのかをグループで話し合い改善しました。

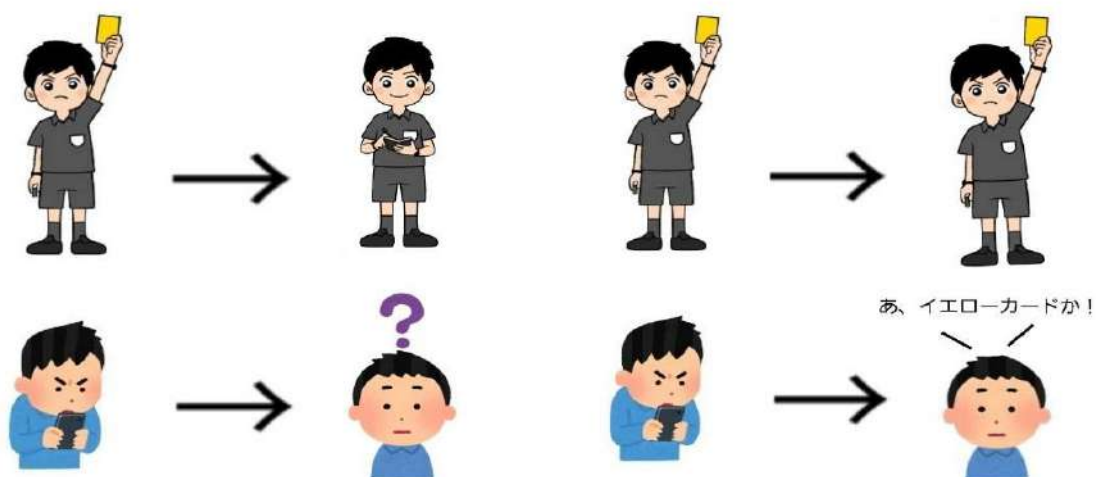
また名木さんより、「これからステップアップし、プレッシャーのかかる舞台やスタジアムで普段通りの表現をするために、スタジアムサイズのシグナルを身につけていく必要がある。」というアドバイスを頂きました。

そのために、

- ・5秒以上シグナルを出す
- ・肩甲骨から動かす
- ・最もかっこよく見えるシグナルをする

というヒントをいただきました。

★ 5秒以上シグナルする理由は？ ★



シグナルが短いと、スマートフォンを見ている観客が笛を聞いて顔を上げたときに何が起こったのか分からない。スタジアムにいる全員に判定を表現するためには約5秒間が必要となる。

東海大学熊本サッカー部 — 城西大学体育会サッカー部

前半 R：佐藤翔太（兵庫） A1：中島颯太氏（千葉） A2：坂本優氏（静岡）

後半 R：坂本優氏（静岡） A1：中島颯太氏（千葉） A2：佐藤翔太（兵庫）

INS：朝井昭子氏

本日は前半で主審、後半に副審2を担当しました。

全体を通して「事象との距離」が課題となりました。その原因に、選手のプレーエリアを広く空けようという意識からくる次の予測からの先取りの動きが多く、争点でのプレーが完結する前に次のポジションへと動いてしまっていることがありました。改善方法として、レフェリーサイドで無理に動いてポジショニングを取ろうとするのではなく、プレーに合わせて後から動いていくという選択をもつことが必要だと学びました。

振り返りミーティング

その日の担当試合の情報を共有し、映像を用いてディスカッションを行いました。

その後、全体で各グループから出た映像を用いてディスカッションを行いました。

私たちのグループでは私の試合で発生した「SPA カラフプレー」の意見の分かれる判定について全体に共有しました。皆さんの意見から、SPA の条件や判断基準をしっかりと持ち、競技者の意図を考える前に状況から判断をする必要があると学びました。また、その事象を注視するだけで無く、そこに加えて全体を俯瞰して見ることで状況を正しく見極めることに繋がると学びました。

【 3 月 7 日 (火) 大会 2 日目 】

中央大学学友会サッカー部 B1 — 東京国際大学体育会サッカー部

R : 佐藤翔太 (兵庫) A1 : チーム帯同 A2 : チーム帯同

INS : 田中厚 氏

この試合では前半から手のファウルが多くあり、どう減少させていくかが課題となりました。改善点として、ファウルの笛を吹くタイミングを意識してマネジメントしていくことや、どこかのタイミングでパブリックに手のファウルについてマネジメントすること、カードで対応することなど様々なヒントを得ることができました。

また、DOGSO とアクシデンタルな接触 (NO ファウル) で意見の分かれる事象がありました。映像を多くの審判員に見てもらい、様々な意見を頂く中で「守備側と攻撃側の位置関係」と「不用意とは」ということが議論の対象となりました。これらに関して話をしていく中で、「守備側競技者は攻撃側競技者に体を入れられた時点で、後方から接触すること自体が基本的には不用意にあたる」という整理を行いました。またこの事象の前のポジショニングが悪かったために、争点との距離が離れたことも改善していく必要があると学びました。

振り返りミーティング

この日のミーティングでは、大会において私たちに求められていたものは何かということを確認しました。その後、その日のパフォーマンスを共有し、それぞれの課題について改善のヒントを出し合いました。またそのディスカッションの中で、「①判定基準②表現すること③マネジメント④ポジショニング」のそれぞれの課題が繋がってくるということを見出し、様々な角度から課題にアプローチすることが大切だと感じました。

【3月8日(水) 大会3日目】

IPU・環太平洋大学体育会サッカー部 — 流通経済大学体育会サッカー部

R: ハズィム アラー 氏 (富山) A1: 佐藤翔太 (兵庫) A2: チーム帯同

INS: 浜田 章治 氏

本日はファウルサポートを2回行いました。

どちらのサポートも状況をしっかり把握をし、主審の対応まで見た上でサポートを行う事が出来ました。この経験から、事前に主審の位置を把握しておく事でどのような場面でサポートが必要かを整理することができ、判断もしやすくなると学びました。

振り返りミーティング

本日のミーティングでは、研修会の振り返りを行いました。

はじめに、研修会参加にあたり意識することに対する自己評価を行いました。

向上のきっかけ

1 ————— 5

大会貢献

1 ———— 5

仲間の拡大

1 ————— 5

1 ———— 5



また、1日目からの課題に対する変化についても確認しました。

【3月9日(木) 大会4日目】

IPU・環太平洋大学体育会サッカー部 — 中央大学学友会サッカー部 B1

前半 R:佐藤翔太 (兵庫) A1:福田 峻平 氏 (兵庫) A2:諸原 宙弥 氏 (長崎)

INS:石川 正樹 氏

本日の試合では、手のファウルに関する基準が課題となりました。

両競技者が手を用いてプレーをしているため、大きな影響がない限りファウルと判定をしませんでした。その判断が「審判員のエゴ」になっていないかというご指摘を頂き、自分自身の判定基準について見直していく必要があると感じました。

一方で、研修会前やこの研修期間で出た課題に対して得たヒントを試合で一番活かすことができ、大きな収穫を得ることができました。

【大会を通して】

「チャレンジ」する事を目標に研修会に参加させていただき、様々な失敗と成功を経験し、課題に対しての様々なヒントを得ることができました。特に課題であった中盤以降のポジショニングでは、動きすぎている事でポジションが取りにくくなっているということが大きな発見でした。その点を意識することで、次の試合から少しずつ動きやすくなる感覚を得ることができました。また、チャレンジすることによって「してはいけない事」を理解する事が出来ました。特に DOGSO の判定が求められた場面の直前のポジショニングで、いつもより前へ前へとポジショニングを取るチャレンジをした事で、カウンターで大きく離されるといった結果となりました。この経験から、ポジショニングを選ぶ中でリスクをどう減少させていくかを考えて行くことが課題となると気付く事が出来ました。

【研修会を振り返って】

今回2回目となるU-22 審判員研修会に参加させていただき、改めて同年代の審判員から得るものが多くありました。その中で特に感じたことが、自分から行動することの大切さです。積極的にコミュニケーションを取ることを意識し、様々な審判員、インストラクターの皆様と会話させていただきました。その会話を通して、自分自身が考えていることと全く違った考え方や、違う表現の仕方、私

と同じ考えの意見など様々な考え方に触れることが出来ました。そういった会話から、自分自身の判定基準の整理をしたり、課題に対してのヒントを得たりなど、成長のためのヒントを多く得ることができました。また、同年代の審判員と関わる中でもっと成長し、次のステージで再会したいと強く思いました。

この研修会で得たたくさんの貴重な経験を改めて整理し、関西でより深めていきたいと思います。そして、微力ですが少しでも関西・兵庫・明石に貢献できるよう頑張ります。研修会参加にあたり、日頃からご指導いただいている皆様、また大会期間中お世話になった皆様、本当にありがとうございました。



U20 審判員春季研修会 参加報告

兵庫県サッカー協会 小山龍之介

1. はじめに

この度、3月8日～12日にかけて茨城県で行われました「TRAUM CHALLENGE FESTA 2023 in SPRING」に審判員として参加させていただきました。このような大会に推薦していただきました関西サッカー協会の皆様、日頃からご指導いただいている兵庫県サッカー協会の皆様、大会期間中にお世話になりましたすべての皆様に感謝申し上げます。

2. 試合内容

1日目 上武大学サッカー部 B VS 東北学院大学体育会サッカー部

インストラクター 新 恭一氏

この試合は、副審を90分間させていただきました。この試合では、表現することを意識しました。タッチジャッジで際どいシーンがありました。その際に自信を持ち長い間シグナルをすることで選手は文句を言わずに次のプレーに切り替えてくれました。試合後にはインストラクターの方から出し手と受け手を同一視野に入れるプラクティカルを行いました。

2日目 上武大学サッカー部 B VS 福山大学学友会サッカー部 Blue

インストラクター 田淵 量也氏

この試合では、試合数と審判員の兼ね合いの関係により前半は副審を担当し、後半は主審を担当しました。自分判定基準を一定にするように心がけました。私は、この試合 DOGSO で退場させました。ビデオを撮っていたため、確認すると4要件に当てはまっていた。この時に前日にプラクティカルで行ったことを意識していたので、ファウルが起こった瞬間の守備側競技者の位置と数をしっかりと把握することができました。判定に関しては、不自然なものはないと思います。動きの部分でステップをもう少し踏めるようにとインストラクターの方にアドバイスをいただきました。また、重要なエリアをしっかりと見るために動き出しの部分についても教えていただきました。

3日目 上武大学サッカー部 B VS 東京国際大学

インストラクター 平井 裕雄氏

この試合では、副審を90分間させていただきました。この試合では、ファウルサポートを行いました。主審の死角になる部分だったため、自身をもって旗を振りました。この時には表現することを意識し、見ている人に何があったのかを分かりやすくしました。

4日目 東北学院大学 VS 福山大学 A

インストラクター 平 章人氏

最終日は1試合通して主審を担当させていただきました。試合中に副審のフラッグアップに気づかないときがありました。副審はそのままフラッグをおろしてしまうということが起こりました。試合前にどう対処するのかしっかり打ち合わせをすることの重要性を学びました。ハーフタイムにアドバイスとしてファウルと見えたのならしっかり吹きなさいと言われました。前半は選手がやろうとしていたため、手のファウルを見逃していました。しかし、後半は言われたとおりにすると基準が一定になり、きちんとファウルを取ることができました。異議でのカードを出しました。異議での時にはカードの出し方を変える方が良いとアドバイスをもらいました。

3月8日 大会初日前日の夜

最初に向上のきっかけ、大会貢献、仲間の拡大、リーダーシップの4つが掲げられました。今回は審判員だけをすればいいのではない。スタッフとしても働く必要があった。基本は赤いビブスをつけての移動となった。事前アンケートをもとに4つのテーマの課題がみんなの中にあった。①判定基準②表現すること③マネジメント④ポジショニング。4つに関してグループで話し合った。

3月9日 1日目

午前中はU22の試合が行われていたため、部屋でシグナルについてお話がありました。シグナルは5秒以上以上だすという話がありました。理由としては、私たちには大きなスタジアムで観客がいるのをイメージしてほしいからです。もし、すぐにシグナルをおろせば、観客は何が起こったのかわかりません。だから、今から身につけておく必要があります。

GK前での接触に関しては早めの介入が必要です。序盤に緩いしてしまうと、後々大変になるため早めからマネジメントしておく必要があります。研修会参加期間中は私たちにとって非日常である。それは、どう日常にもっていくのが大事である。

3月10日 2日目

なぜ選手がファウルするのかについて話し合いました。たくさんの意見が出てきました。戦術的観点からや個人的な要因といろいろありました。もし、選手の気持ちがわかれば、ファウルするタイミングもわかり正しい判定につながると感じました。

3月11日 3日目

コイントスに関して、やはりど真ん中であることがベストです。少しでもずれると、見

栄えが悪くなります。ハーフタイムの過ごし方は大事です。修正が必要ならばしっかりと話し合って頭を整理して、後半に入る必要があります。

研修会を通して

私は JFA が主催する全国研修に初めて参加させていただきました。各地域から同年代の審判員が集まってきたので、自分にとってとても刺激がありました。自分では当たり前だと思っていたことでも、コミュニケーションを取っていく中で新たな発見もたくさんありました。また、インストラクターの方にも丁寧にアドバイスをいただきました。自分の良いところを残しながら大会を通して改善していきました。また、これから社会人の試合が増えていく中での悩みを扇谷さんとお話ししました。自分にとって重く考えていたものを少しは前向きなものへと変化出来たのではないかと思います。私はこの研修会に参加し、自分自身でも成長できたと実感しています。今回の研修会で出会ったメンバーとまた全国研修でお互いが成長した状態会いたいと思いました。

そのために、まずは関西、兵庫でしっかりと力をつけ関西の Kategorie に入り関西を代表する審判員となり、全国の場に戻りたいです。

今回は、名木さんを始め多くの方にお世話になりました。本当にありがとうございました。



JFA 第 34 回全日本 O-30 女子サッカー大会 参加報告書

●はじめに

このような全国大会に参加でき、とても貴重な体験を多くさせていただきました。推薦していただいた、兵庫県サッカー協会・関西サッカー協会みなさまに改めて感謝いたします。2023年3月16日(木)～2023年3月19日(日)にJFA第34回全日本O-30女子サッカー大会に参加した報告をさせていただきます。

●大会について

開催地：時之栖スポーツセンター裾野グラウンド（静岡県裾野市）

〈1次ラウンド〉 2023年3月17日（金）

〈1次ラウンド・2次ラウンド〉 3月18日（土）

〈2次ラウンド〉 3月19日（日）

【3月16日：1日目】

17：30に時之栖スポーツセンターに集合し、19：30から研修が始まりました。

★研修会の内容

①自己紹介

②負傷者の対応について(講師 山岸氏)

競技規則に基づき、負傷者が出たときに冷静に対処できるように話し合いました。脳震盪の疑いがある競技者への対応や、その後の試合の進め方などを再確認することができました。

③試合中のポジショニングについて(講師 山岸氏)

今回の試合のレベル感の確認とそれに対する自分のポジショニングをどうするか。ゴールキックがショートの場合など、どう対応していくのかという課題をいただきその日の研修会は終了しました。

【3月17日：2日目】

★担当試合① リトルスターズ(東北/宮城) × FC 楓昴 Lifelong(関東/埼玉)

R 畑中あずさ AR 秋山心音氏(北海道)、中村仁氏(静岡) 4th 時野拓一郎氏(静岡)

この試合では主審をさせていただきました。この試合では、オンリーワンになるオフサイドが多く、副審との協力がとても重要となりました。オンリーワンなりそうなオフサイドで、私が副審のフラッグアップをキャンセルし、フラッグアップにより試合が止まったにも関わらず、プレーを続けさせた結果、ゴールが入るという事象が起きました。これについて、夜の研修会で話し合いがありました。

★担当試合② 山口選抜(中国/山口) × リトルスターズ(東北/宮城)

R 秋山心音氏(北海道) AR 畑中あずさ、望月大幹氏(静岡) 4th 海野勉氏(静岡)

この試合では副審をさせていただきました。主審とのコミュニケーションもたくさんとることができ、円滑に試合を行うことができました。

★研修会の内容

①負傷者の対応

負傷者がでて、チーム役員を入れるときの注意事項について話し合いました。役員の数やシグナルなどを確認しました。

②オフサイド

私の試合で起こった事象について、どうすれば防げたかについて話し合いました。私自身も事象についてしっかり見直すことができました。

③協力

試合とインプレー中に止めたあとの再開方法が違った試合があり、どうすれば防げたのかについて話し合いました。話し合いの結果、事前打ち合わせを改善する必要があると感じました。

④自由な交代

この大会は自由な交代であり、それに対応した行動について話し合いました。4thのときに意識することや、自分が主審のときに4thになにをお願いするかについて話し合いました。

【3月18日：3日目】

★担当試合① シュピーニ大阪(関西/大阪) × FC べにばな(東北/山形)

R 畑中あずさ AR 佐藤颯音氏(三重)、山本雄三氏(静岡) 4th 中井亜美氏(静岡)

この試合では主審をさせていただきました。前日の研修会で副審、4th との協力についてはなしていたこともあり、コミュニケーションをしっかりとることができました。

★担当試合② FC マミーズ(中国/山口) × SOCIOS.FC.VENGA(東北/宮城)

R 佐藤颯音氏(三重) AR 畑中あずさ(兵庫)、中井亜美氏(静岡) 4th 山本雄三氏(静岡)

この試合では副審をさせていただきました。タッチジャッチのシグナルを焦らずにすることや主審がフラッグアップに気付かなかったときなどのアドバイスをいただきました。

★研修会の内容

この日の研修会は、試合中に困ったことについて共有し、改善点を話し合いました。

① タッチジャッチについて

コーナーフラッグ近くでのスローインのときの副審の位置についての再確認をしました。

② 競技者の用具の損傷

用具が損傷した競技者への対応法、競技者をフィールドに入れるタイミングについて確認しました。

③ コーナーキックのときのポジショニング

コーナーキックのときに主審がどこにポジショニングをとるか、何をみたいのかについて話し合いました。

【3月19日：4日目】

★担当試合① 室蘭アイスバーズ(北海道) × SOCIOS.FC.VENGA (東北/山形)

R 畑中あずさ AR 清水東氏(静岡)、渡邊剛氏(静岡) 4th 友宗菜月氏(岡山)

この試合では主審をさせていただきました。この試合では、副審とのコミュニケーションがうまくとれず、差し違いが目立ちました。ファウルの判定基準もぶれていると指摘をいただきました。

★担当試合② FC 楓昂 Lifelong(関東/埼玉) × おいでやす京都(関西/京都)

R 藤田ひなの氏(栃木) AR 中井亜美氏(静岡)、鈴木未友貴氏(静岡) 4 th 畑中あずさ

この試合では4 th をさせていただきました。自由交代ということもあり、不安でしたがやり遂げることが出来ました。

●最後に

はじめての全国大会での主審で、とてもいい経験になりました。様々な地域の方々と交流 こともできました。この大会に参加したからこそできた経験や感じたことを、今後の審判活動に生かし、より成長できるように取り組んでいきます。最後となりましたが、このような貴重な経験をさせていただいた兵庫県サッカー協会、関西サッカー協会の皆様には感謝申し上げます。ありがとうございました。